

■今月の特選句

2018年9月

とろろ汁口がすべつてしまひけり

下嶋四万歩

今日はどうも滑らかに口がよく回る。普段は決して口外しないことも、うっかり喋ってしまった。私のせいじゃありませんよ。とろろ汁のせいです。

暑いねとペットボトルに独り言

井野ひろみ

猛暑には常時携帯するペットボトル。人間相手にボヤいたって「誰だって暑いんだ」と言われるだけ。黙って聞いてくれるペットボトルの方がマシよ。

八月や御霊にゆつくりして行けと

百千草

東の間の滞在となる御霊に話しかける。人は誰かと対話しなければ生きてゆけない。心の中に誰かを住まわせる人は寂しくないのかも。

常ならむ雨意の奥山秋出水

伊藤浩睦

大雨に災害にほへど崩るるを眺めるだけで手立てなく後手後手となる治水対策。猛暑の中の復興活動ニュース見る度胸の痛みて。

お日様の恩恵忘れる暑さかな

花岡直樹

人間は勝手なもの。暑いのは奴のせいだと万物の造り主とも言える太陽を睨む。温暖化していると言われるが、第三氷河期になるという説も。

電機代少しく惜しみ熱中症

久松久子

最近のエアコンは一日中つけてもせいぜい三百円。それでも質素儉約が沁みついてるから使うのを我慢。冷房を効かせていい滑稽句を詠んでよ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

種取りと言はれ向日葵うなだれる ・・・子孫繁栄喜びなさい	稲葉純子
妬心秘め山女魚の魚籠を覗きけり ・・・妬まれる身も今夜焼かれる	吉原瑞雲
切れ切れの校歌でしめる夜半の夏 ・・・歌詞は途中でラララに変わり	渡部美香
道おしへ老ひの歩幅に合はさむか ・・・虫はおそらく爺(じじい)を敬遠	相原共良
男踊りの指のしなやか風の盆 ・・・腰を落として踊る剽軽	梅岡菊子
帰省子の大の字狭き居間占拠 ・・・学費送るに建て替え我慢	小林英昭
汗疹と汗疹の文字の似たるかな ・・・見分けつかずに冷や汗をかく	荒井良明
猛炎酷暑さのどれも当てはまり ・・・などと考え暑さ忘れる	山下正純
絵はがきも切手もひまはり夏見舞 ・・・同じ花でも違うデザイン	石塚柚彩
音のない蛇に驚く城址かな ・・・蛇の方がもつとびつくり	山本 賜
夏痩せをしたと妻自己申告す ・・・そりや大袈裟に褒めてやらねば	小川鈍太
名を忘れ苦笑ひする酷暑かな ・・・別れてのちにはたと膝打つ	柳 紅生
行けもせぬ青森ねぶたに血の騒ぐ ・・・血に騒がれちや行かにやならんぞ	柳澤京子

■今月の滑稽句

- | | |
|--|-------------------------|
| 星月夜リュウグウ星に目をこらす
【佳作】 生身魂同じ話を繰り返す | 相原共良
相原共良 |
| 【佳作】 プライドが邪魔して孤独羽抜鳥
ギブアップ腹だけは減る猛暑かな
這ひ出して干物になりし蚯蚓かな | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| ロシアワールドカップ渋谷は白夜
【佳作】 五百円玉がいっぱい金魚玉
息みをる上も厠よ夏館 | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 穀象にサーカス芸を教へけり
【佳作】 廃校のカフェの「給食」夏料理 | 荒井良明
荒井良明 |
| 油虫飛んで着地の溺れゆく
風鈴やピンピンコロリ逝った奴
【佳作】 かたつむり死んだふりして生きている | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 蚊一匹あの令嬢が夜叉となり
夕涼みヴィナスをうらやむ地藏哉 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 夏休み四日間だけの大家族
帰省子等台風一過のやうに去り | 石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 傘頼み危険な暑さしのぐ舗道(みち)
抜け殻も震えているよ蝉時雨
【佳作】 勉強のしすぎじゃないのよ熱中症 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 米朝の地獄八景盆提灯
震災忌巧き歌詠みいたらしく | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 秋立つや赤糸白糸の縄のれん
πr三乗の笑み詰め込みし西瓜かな
【佳作】 嫁姑いずれ介護の秋茄子 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 【佳作】 蛇の衣入れたる財布拾ひけり
栗の花人近付きてすぐ離る
水が好き空が嫌ひで水母かな | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 表面張力生れたての玉の汗
夏の空串刺しにするホームラン | 稲葉純子
稲葉純子 |

茶も飲まず盆僧帰る稼ぎ時	井野ひろみ
水を打つ地球の火照り冷まさんと	上山美穂
【佳作】 目薬さそうか迷走台風に	上山美穂
温暖化結果は蟬の大音響	上山美穂
風に乗りて何処へ行くやら秋の蝶	梅岡菊子
【佳作】 薄き膝たたみて正座生身魂	梅岡菊子
作務衣着こなしいケメンの盆僧よ	梅野光子
夏暁を映して流れゆたゆたと	梅野光子
【佳作】 お日様に羽を焦がして黒トンボ	梅野光子
茹で上がる練馬本日四十度	太田史彩
底紅や一人一人に文字の癖	太田史彩
【佳作】 香水や今はどうしているだらう	太田史彩
【佳作】 幼子の願いでしなり笹かざり	小笠原満喜恵
山雀のひなを手にのせ登山道	小笠原満喜恵
探鳥に立ちはだかるや藪蚊ども	小笠原満喜恵
朝昼晩十時に三時暑気払ひ	小川鈍太
【佳作】 帰省子の鳶のままでありにけり	小川鈍太
【佳作】 朝蝉昼蝉夕蝉聞き分ける	加藤澄子
ゴーヤばかりが青々として酷暑かな	加藤澄子
お供えを持ち寄る盆飯の記憶かな	加藤澄子
【佳作】 何時終る体温を越すこの暑さ	川島智子
勝つまでは欲しがりません敗戦日	川島智子
十才の思い出は無し暑さのみ	川島智子
【佳作】 引き算に足し算かけ算かき氷	久我正明
フラダンス習っていますかたつむり	久我正明
紫陽花の崩れし色を塗り直す	久我正明
サイレン過熱炎暑の救急車	工藤泰子
銘柄は桃太郎てふ青葡萄	工藤泰子
【佳作】 石垣をボルダリングの蜥蜴かな	工藤泰子
炎帝に睨まれ静かなる園庭	桑田愛子
夏の水洗濯表示読めぬまま	桑田愛子
【佳作】 人生は夢だと気付く昼寝覚	桑田愛子
【佳作】 打水を終うて女将は化けなほす	小林英昭
ひまはりに咎められたる立尿	小林英昭

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】 朝顔のみずみずしさを吾も欲し
散水のホースでつくり人工の虹
初茄子に実がらしとても仲がよい | 近藤須美子
近藤須美子
近藤須美子 |
| 最小の望月地球の影に入る
【佳作】 この暑さ大接近の火星の所為
水音が高すぎプール中止なり | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 人生は終わることなき草むしり
蓄へも減りゆく中のクールビズ | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 大夕焼天動説の如沈む
夏至の日の早く目覚むも徒食なり
朝採りの狭庭の胡瓜みづみづし | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 追ひ風に又も水馬フライング
【佳作】 ごきぶりに我が身重ねて打ち損ず
憎まれっ子草笛吹いて返上す | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 掛け声の右だ左だ西瓜割り
校長の話長々蝉時雨
先に着く帰省家族の大荷物 | 鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子 |
| 指の二三本が生き下手で軍手の中
【佳作】 紫蘇もんだ手明日のこと考えている
虫除けスプレー自分に吹いていいのか | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 暑気払ひ大義名分昼の酒
夢殿やいつも世間は蟻地獄
手鏡も月下美人に酔いにけり | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| ほうたるの灯もいらぬゲームかな
門限てふ言葉は死語に夏休み
【佳作】 一口に切られし西瓜ばかり売れ | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 蓮の花たつたひとりへの降臨
大口をあけてをんなの昼寝かな
【佳作】 熱帯夜その日暮らしの人たちの | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| お犬様日傘差されてバギー中
まくなぎ君願ひだから去んでくれ
【佳作】 娶らざる嫁(い)かざる孫や稲の花 | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |

- 【佳作】 二の腕のさせぬ八十路の酷暑かな
ホームラン酷暑の空に突き刺さる
暑さ除け塩飴ハンドバックには
田中晴美
田中晴美
田中晴美
- サングラス女心を武装して
【佳作】 夏大根いやいや濡ればいと辛し
緑蔭のベンチはどれもむんむんや
田村米生
田村米生
田村米生
- 海の日や岸に戻れぬ大人カヌー
打ち水の後に我にも打ち水す
【佳作】 蚊遣火を焚く迄待たぬ蚊の無情
月城花風
月城花風
月城花風
- 嘘並ぶ浮き世をぼやく端居かな
【佳作】 片陰を追ってる人の列に入る
ただ街の散歩が好きで熱中症
土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山
- 【佳作】 宿浴衣不味いものなき昭和の子
暑いわね暑いね四万六千日
おれおれも顔見せ担ぐ御輿かな
飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝
- 二学期の恋の御浚い実習室
鶺鴒(かささぎ)の橋の架け替え間に合わず
【佳作】 名月と別れを愛(お)しむ火星かな
西をさむ
西をさむ
西をさむ
- 夏風邪の熱より高き気温かな
夏風邪をビールで冷やし消毒し
花岡直樹
花岡直樹
- 【佳作】 夜と昼蟬にもフレックスタイムかな
絵日傘をひっくり返し土用東風
夏の日やシャツに日射しがつきさる
林 桂子
林 桂子
林 桂子
- 取り逃がす太もも太き大飛蝗
夜遊びや蝶の予定が蛾に生れて
【佳作】 股のぞき天地無用の雲の峰
原田 曄
原田 曄
原田 曄
- 【佳作】 蟬殻のブローチ付けて下校の児
噴水を立役者とし恋成就
久松久子
久松久子
- おじさんが少年の顔かぶと虫
どうしてもはだけたがるや宿浴衣
【佳作】 頑固一徹平成三十年の暑さ
日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子
- 熱中症癒さんとして潮の風
早起きの朝顔に笑むおてんと様
【佳作】 太鼓腹ぽんと叩いて西瓜抱く
廣田弘子
廣田弘子
廣田弘子

炎天下文句ばかりの五体かな 真夏日や日がな一日ボーと生き 【佳作】 穿く脱ぐにふらつく老いの半ズボン	細川岩男 細川岩男 細川岩男
削り節の天敵となる扇風機 部屋干のシャツが優先扇風機 【佳作】 風神の心地で操作扇風機	堀川明子 堀川明子 堀川明子
ためらひてひっくり返す竹夫人 梅雨明け宣言初蟬を聞いた日の 【佳作】 へぼ将棋王手をかけて蚊を打ちぬ	本門明男 本門明男 本門明男
井手はなせとは水を張ること大夕焼 猫を抱き見上げる夕空夏日星 【佳作】 夕風に耳を澄ませば虫の音も	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】 如何にせんバットの先の赤トンボ 水分塩分とついていますか蟬しぐれ 万引はしておりません螻蛄家族	南とんぼ 南とんぼ 南とんぼ
鏡してはやぶさ捉ふ植田かな にべもなく舩打つ速さ老うはやさ 【佳作】 蚊遣豚よべの仔細を渦に巻き	椋本望生 椋本望生 椋本望生
【佳作】 終戦日ブリキの猿が手をたたく 脱ぐところお目にかかれぬ蛇の衣 実のならぬ芭蕉に習ふ子規(ほととぎす)	村松道夫 村松道夫 村松道夫
【佳作】 わけもなきことを笑ひて夜長かな 盆僧の法話終わりに目覚めけり むつかしやさしすすせそ長き夜	村山好昭 村山好昭 村山好昭
【佳作】 夏空を麒麟の首が搔き回す 守宮来てつぶら眼をひと舐めす	百千草 百千草
【佳作】 こぼれ風となり席まで団扇かな 黒い種西瓜の肝をつかみおり 甲子園応援している蟬時雨	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】 母さんはやはりマジシャンところてん 滝壺の前の会話は手話めきぬ 自由てふものハンモックに奪われる	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】 のんちゃんは雲にあたいは虹に乗る 高温に鳴かず飛ばずの蚊のをらず	八洲忙閑 八洲忙閑

サボテンは何も言わない聞き上手 うなぎより穴子が好きな君が好き 【佳作】山神とキスするように岩清水	八塚一青 八塚一青 八塚一青
帰省子の五百羅漢の貌となる 先生を狙ひ撃ちする夏期講座 【佳作】靴履いて和洋折衷の浴衣かな 吾も化け時代も変わり夏祭	柳 紅生 柳 紅生 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】走りたくても走れない汗事情 堂々と汗かきたれる炎暑かな	山下正純 山下正純
【佳作】鉄塔がよかつた石楠花の写真 練切にゴッホの向日葵バッチほど	山本 賜 山本 賜
稲刈りも観光となり千枚田 スポーツ界大混乱の炎暑かな 【佳作】慰みは軒の燕や子ら去りて	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】大昼寝新聞顔で読んでゐる 大夕立車の屋根をどやしつけ 踊りの輪会釈ひとつをして入る	横山洋子 横山洋子 横山洋子
梅雨の雨口開けて待つ植木鉢 【佳作】太陽の化身のごとく大向日葵 世の中の憂さ飛び散らし大花火	吉川正紀子 吉川正紀子 吉川正紀子
【佳作】この国の滅ぶことなき青田波 こだはりを捨てねば仇戊辰戦	吉原瑞雲 吉原瑞雲
シベリアの地獄十年敗戦忌 【佳作】炎天を百六で逝く骨薄し	渡部美香 渡部美香